

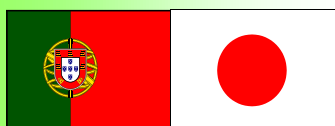
OBRIGADA PORTUGAL

Oita Japan Portugal Association

「オブリガーダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」（女性が言う場合）の意味です

2013年号

1月31日発行



大分日本ポルトガル協会

事務局

大分市企画部文化国際課
国際化推進室

住所

〒870-8504
大分市荷揚町2番31号

TEL

097-537-5719

FAX

097-536-4044

Eメール

kokusai@city.oita.oita.jp

ホームページもご覧ください

[http://oita-kokusai.jp/
portugal-toppage.html](http://oita-kokusai.jp/portugal-toppage.html)



☆アベイロ市が大分市にアズレージョを寄贈

ポルトガル・アベイロ市から、姉妹都市である大分市にアズレージョタイルが寄贈されました。このタイル画は、姉妹都市提携30周年を記念して贈られたもので、高さ225cm、幅180cm、総タイル数180枚に及ぶ大きなものです。タイルには運河に浮かぶモリセイロが描かれており、アベイロの美しい風景を見ることができます。大分市はこの作品を、7月20日開館予定の複合文化施設『ホルトホール大分』に設置する予定で、開館日以降にご覧いただけます。



寄贈されたアズレージョ
『CANAL CENTRAL (中央運河)』

～今回の内容～

- ☆アベイロ市が大分市にアズレージョを寄贈・・・1 page
- ☆イネスさんの南蛮文化紀行 i n 大分・・・2、3 page
- ☆ポルトガルのクリスマスと新年・・・4 page

☆イネスさんの南蛮文化紀行 i n 大分



昨年9月に、ポルトガル・コインブラ大学の大学院生イネス・マトスさんが来訪されました。イネスさんはポルトガルと日本の文化について研究されています。今回は日本における南蛮文化の調査・研究のために来日され、ポルトガルの都市と姉妹都市関係にある日本の都市を巡りました。ここからはイネスさんが調査した大分に残るポルトガルゆかりの地をご紹介します。

ポルトガルの都市と姉妹都市関係にある日本の都市を巡りました。ここからはイネスさんが調査した大分に残るポルトガルゆかりの地をご紹介します。

案内してくれる人
当協会会員である大分県立芸術文化短期大学の疇谷憲洋先生が、大分市、臼杵市にある南蛮文化を今に残す史跡などを案内してくれました。



遊歩公園銅像群

大手町にある遊歩公園には、フランシスコ・ザビエル像、伊東マンショ像、西洋美術発祥記念像など、南蛮文化に関する像が多数設置されています。



大分市歴史資料館

大友宗麟を中心に、日本人としてはじめてヨーロッパを見聞した天正遣欧少年使節などについて解説したコーナーが常設展示されています。



ポルトガル帆船モニュメント

日本とポルトガルの友好450周年を記念して、1993年に造られました。ギャラリー竹町ドーム広場にあります。



デウス堂跡

府内教会（デウス堂）は宗麟の時代、現在の顕徳町付近にあったとされる教会で、毎日ミサが行われ、オルガンやピアノに合わせて聖歌を歌ったり、宗教劇が演じられたといわれています。現在はデウス堂跡の碑が建立されています。



大友宗麟公像

大分市コンパルホールの文化ホールホワイエに設置されています。大分駅北口にあった像の原型で、作者である富永直樹氏から大分市へ寄贈されました。



大友氏遺跡体験学習館

「450年前の戦国時代、大友宗麟によって、西洋文化が華開いた大分のまちを楽しく学べる歴史の教室」として、平成20年4月に開館しました。大友氏遺跡についてのパネルや出土品、映像を使った展示・解説を行っています。



アルメイダメモリアルホール

大分市医師会立アルメイダ病院の附属施設であるアルメイダ研修会館内に設置されています。日本初の西洋式病院（府内病院）を開設したルイス・デ・アルメイダの年表や府内病院のミニチュアなどが展示されています。



久家の大蔵



外壁一面にアズレージョタイルが装飾されています。この壁画は、アズレージョ美術の第一人者であるロジェリオ・リベイロ氏により制作されたもので、キリシタン文化を彷彿と

させる絵柄になっています。蔵の中にも「生誕」「洗礼」「昇天」と題された大きな3枚のパネルがあり、いずれも見ごたえのある作品です。

サーラ・デ・うすき

南蛮コーナーでは、臼杵市の歴史上重要な南蛮交流について、展示資料や映像資料などを使って紹介しています。南蛮屏風、大砲「国崩し」のレプリカなどが展示されています。



臼杵城跡

丹生島城・亀城とも呼ばれていた城で、大友宗麟の居城として築城されました。築城当時は丹生島と呼ばれる孤島上の城郭で、周囲の海が天然の要害となり、堅固な守りを誇っていました。現在は石垣などを残すだけで、国崩しのレプリカ、大友宗麟のレリーフなどが設置されています。

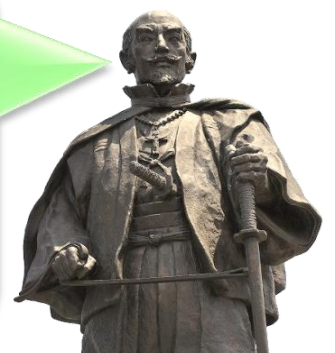


姉妹都市提携当時の調査

イネスさんは史跡の調査だけでなく、大分市とアベイロ市の姉妹都市提携当時の様子も調査されました。当時、姉妹都市提携に携わられた磯崎大分市副市長と面会し、熱心に話を伺っていました。



**イネスさん、疇谷先生ありがとうございました！
大分には、まだまだ知られていないポルトガルや南蛮文化にゆかりのある場所がたくさんありますね。
みなさんも是非訪れてみてください！**



☆ポルトガルのクリスマスと新年

ここでは、ポルトガルでのクリスマスと新年の過ごし方についてご紹介します。

○家庭的で暖かいクリスマス

クリスマスが近づくと、各家庭や協会ではプレゼピオと呼ばれるキリスト生誕の場面をかたどった像が飾られます。（写真①）人々は故郷に帰って家族と共にクリスマスを過ごし、各地の大聖堂や教会のミサに参加します。



①プレゼピオ

○クリスマスツリー競争？

街にはクリスマス装飾が登場し、夜は幻想的なイルミネーションに彩られます。特にポルトとリスボンの大クリスマスツリーが有名で、ライバル関係にある二つの町は、どちらがより大きなツリーを飾れるかを競っているとも言われています。（写真②）クリスマス装飾は1月頭まで飾られます。1月頭までそのままなのは、決してポルトガル人がルーズと言う事ではなく、1月6日の『王様の日』までは、クリスマスのデコレーションをしたり、クリスマスのお菓子『ボーロ・レイ』を食べたりする習わしです。



②リスボンのツリー
(2007年)

○干しダラ料理とあま〜いお菓子

クリスマスイヴの日にはバカリャウという干しダラの料理を食べます。干しダラを使うのは共通ですが、各家庭で調理法が違います。クリスマス以降は肉料理も食べます。デザートには『ボーロ・レイ』と呼ばれる砂糖漬けの果物が詰まった冠型のお菓子などを食べます。（写真③）



③ボーロ・レイ

○新年のお祝い

真夜中になると、各町でいっせいに花火が上がります。年明けと同時に干しぶどうを12粒、時計の鐘に合わせて食べる習慣があります。12とは12ヶ月を意味し、毎月健康で幸せであるように願うそうです。（写真④）年始にはジャネイラスと呼ばれる人々が家々を回り、伝統の歌を歌い、人々の幸福を祈ります。（写真⑤）



④売られている
干しぶどう



⑤ジャネイラス

編集後記

今回の「オブリガーダ」は、いかがだったでしょうか。
アベイロ市のアズレージョが設置されるホルトホール大分は、着々と工事が進んでおり間もなく完成する予定です。お披露目が楽しみです。
これからもポルトガルを知り、親しんでいただける情報を発信していきたいと思えます。皆様からの情報・お知らせなどがありましたら、是非事務局までお寄せください。

★大分日本ポルトガル協会事務局★

